

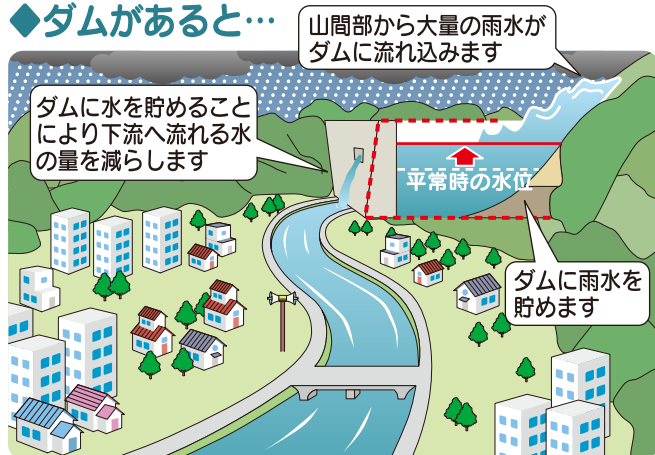


広川ダム役割

洪水被害の軽減・防止

広川ダムの上流部・山間部に大雨が降ると大量の水がダムに流れ込みます。一時的にその水を貯め、下流へ流す水の量を減らすことにより、洪水被害を軽減・防止します。

◆ダムがあると…



◆ダムがないと…



ダム全図 航空写真



洪水調節の仕組み



①取水塔



②放水バルブ

◆通常時のダムの様子



③越流堤

◆豪雨後のダムの様子



令和元年8月28日の様子

通常時は①取水塔より取水し、②放流バルブの調整により、河川「広川」へ調整放流しています。

豪雨時は上流部からの雨水をダムへ貯水し、下流域に被害が出ないように調整をして放流します。

ただし、令和元年8月28日のような特別警報級の雨が降った場合、ダムの貯水能力を上回り、最終的には③越流堤から越水（オーバーフロー）します。広川ダムにも限界があり、決して強制的に放流したり、決壊したわけではありません。このような状況になった場合は、防災行政無線放送やメールなどでお知らせいたしますので、河川沿いにお住まいの方は避難してください。